

ST.

CLARA



**SOLLEMNITAS
SANCTÆ CLARÆ ASSISIENSIS
2011**

Litteræ Ministri Generalis Ordinis Fratrum Minorum

二つの名前、二つの現象、二つの伝記：フランチェスコとキアラ 貧しいクララ会創立800年祭

親愛なる貧しいクララ会の皆さん
主が皆さんに平和をくださいますように

4月16日に、全世界におられる聖キアラの娘たちとの交わりのうちに、私はアッシジのキアラの回心と貧しいクララ会の創立800年祭をアッシジで荘厳に祝いました。このお祝いは、アッシジ司教ドメニコ・ソッレンティーノ猊下の司式のもと、サン・ルフィーノ大聖堂で行われた受難の主日の第一晩課から始まりました。この後、ポルチウンクラのサンタ・マリア・デッリ・アンジェリまで巡礼が行われました。そこは、「家、町そして家族」から逃れた若いキアラが「マリアの祭壇の前で主に自らをささげるために逃れた場所でした（cf. *LegCI* 8）。そこで、彼女は、フランチェスコが彼女に与え、後に教皇インノケンティウス4世が貧しいクララ会の「会律」を承認したとき、彼により祝福された「生活様式」を受け取りました。フランシスコ会の兄弟、男女の修道者、同様に信徒たちの多くが参加したこの巡礼は、貧しいキアラたちの大事な場所、キアラの生涯の「目的」を示している場所で立ち止まりました。これらの場所はアッシジのキアラ大聖堂にある修道院とサン・キリコとサンタ・コレッタの二つの修道院です。

これは本当に心が高まる時でした。このお祝いが、キアラの奉獻、すなわちフランチェスコ自身により彼女の髪が切られ、そして貧しいクララの会が作られたことを思い起こさせてくれたからです。アッシジからサンタ・マリア・デッリ・アンジェリ間での夜中の巡礼により心が高まりました。この巡礼はキアラの生涯や著作から取られた歌やテキストの朗読により靈感を注がれました。ポルチウンクラはたいまつで照らされ、人々はそこに長くとどまりました。「いつくしみ深い母が小さき兄弟会と貧しいクララ会を生み出した」（cf. *LegCI* 8）場所ですから。

このため、ポルチウンクラで、フランチェスコに聖なる福音の道に従った生活を靈感をもって示し（cf. *TestCI* 5）、そしていつもそしていつまでも御父に自分の「精神、心そして魂」（*IIICI* 20）を引きつけるように「人々の中でもっとも美しい方」（*IIICI* 20）により魅了されたキアラに呼びかけた「いつくしみ深い父」（cf. *TestCI* 2）に私は感謝いたします。同時に、私は数多くの貧しいクララ会士たちのために神に感謝をささげます。彼女たちは800年の歴史の中で、アッシジのキアラによって生き抜かれ、そして示された「生活様式」に従ってキリストに従ったからです。このようにして、教皇アレクサンデル4世の預言は成就し、このスポレトの谷の「新しい女性」のカルスマを「この木は、教会の畑に信心の甘美な実をもたらした枝の沢山伸び広がっている、気高い、大きく生い茂った木だった」（「聖キアラの列聖大勅書」31）と書きました。実際、キアラの死の時、イタリアには115の修道院、イタリア以外の地では50の修道院がありました。14世紀の初めには413の修道院がありました。今日、全世界の修道院は1000を数え、おおよそ15,000人の姉妹たちがいます。みな「フランチェスコの小さな苗木」から生まれたのです。

お祝いの意味

2011年4月16日から2012年8月11日まで行われるお祝いは、800年前に起こったことの記憶を活性化するために「時宜にかなった時」であることを示しています。この素晴らしい女性の霊性を今一度示すために。また特に、彼女のメッセージが時宜を得ていることを再発見するためです。

「記憶を取り戻すこと」：フランチェスコは、サン・ダミアーノ教会を修復している時に次のように述べました。「私たちの天の御父を賛美する女性たちが住むようになるからです」（*TestCI* 14）。キアラによって生きられた「生活様式」がペトロの奉仕職を助け、教会の使命のための食物の手段であることに気付いた人はいませんでした。おそらくフランチェスコ自身でさえも気付かなかったでしょう。教皇グレゴリウス9世は1228年にフランチェスコの「小さな苗木」とサン・ダミア

一ノの貧しい姉妹たちに手紙を書いています。キアラの生活は「フランチェスコの指導のもとにあり」と。ヨハネ・パウロ2世は、「閉域に住み、そして観想生活であるけれども、隠修士のそれではありません」と書いています。列聖勅書の中で、アレクサンデル4世は次のように述べています。「キアラは黙っていたが、その名声は高く上がる」と。そうです、彼女の名声は福音的な仕方ゆえに高く上がります。彼女は福音的なやり方で、キリストをこの世の人々にもたらし、揺れ動く人々を支えました。彼女の名声は、すべての被造物を、その中でもっとも取るに足りず、忘れ去られたものでさえも包み込むほどの大きな心から高く上がりました。なぜなら、それは創造主のいつくしみによって特徴づけられていたからです (cf. *BullCanCl* 4-5; *IIILCl* 8; *Proc* 7.12)。

「キアラの霊性を新しく提示すること」：聖クララ会連盟の会長たちの第一回国際会議の貧しいクララ会士たちへのメッセージの中で、今回のお祝いについて次の三つのテーマを深めるために三年間の準備の年が設けられました。そのテーマは召命 (2009)、観想 (2010)、そして貧しさ (2011) です。そうです。あなた方は800年祭を祝う準備のためにまじめなやり方を選びました。あなた方は、あなた方の生活を支える霊性を再評価するためにきちんとした道をはっきりとさせ、そしてすべての人に対してキアラの「魂」全体を新しく示しました。あなたたちの兄弟であり、しもべである私は、2008年、2009年そして2010年と私たちの姉妹の祭日の時に書いた手紙を通して、あなた方がこの道を深めていく手助けをしました。

「彼女のメッセージを再発見すること」：明らかに彼女のメッセージは、アッシジのキアラの「鏡と模範」に従ってキリストに従うことを選んだあなた方にまず訴えかけなければならないものです。フランチェスコの三つの会の総長と律修第三会の総長との評議会で、私はあなた方に2011年2月2日付けで手紙を書きました。私たちが問うた質問のいくつかは次のようなものです。「私たちはなにをともに祝おうと望んでいますか。会律の記憶あるいは時間のうちにあなた方と共におられる神の歴史の記憶ですか。そして従順のうちに、自分自身のものを何も持たず、そして貞潔のうちに生きることで私たちの主イエス・キリストの聖なる福音を守るためにあなた方を情熱的にさせ続けるのはどれですか。私たちは、キリストを本当に愛する者で、まねる者であった私たちの幸いなる父フランチェスコが言葉と模範で私たちに示し、教えてくれた道に神の子がなったということ私たちがすべての前で目に見えるように、そして信じられるようにしている「生活様式」の光にどのようにして完全に戻ることができるのでしょうか。どのように、あなた方は教会の生きる記憶になることができ、洗礼を受けたものとして私たちが生きるように呼びかけられているフランシスカン家族のために存在できるのでしょうか」。

私について言えば、キアラの魅力は、彼女が受け取っている福音的生活のうちにあると心から確信しています。修道院の閉域の中で40年間も彼女を支えたものは福音でした。家庭から逃れ、フランチェスコによって彼女に示された「道」を発見すると、キアラは貧しいクララ会士たちを「私たちの主イエス・キリストの聖福音を守る」ために「生活様式」に向けました。福音はキアラの「若さ」の秘密と彼女の能力が教会と現代世界のための指標であることを示すものです。姉妹たち、あなた方の生活で、あなた方が観想し、そして福音に含まれるものとしての生きているみことばに触れることがどうということなのかを教えてください。あなた方の存在で、私たちすべてにとって神がいつも愛であることを教えてください。

アッシジ精神25周年

800年祭がアッシジ精神の25周年と同じ時期に行われるのは啓示的です。フランチェスコとキアラの福音的経験は、ヨハネ・パウロ2世にアッシジを平和のために祈る世界中の指導者を集めるという歴史的行動を実行するための場所として選ぶように導きました。この行動から、「アッシジ精神」としてそれ以降知られるようなものが生まれてきました。私たち、フランシスコ会士はアッシジに生まれます。しかし、私たちは「アッシジ精神」をフランシスカン家族の榮譽として、いやむしろより平和な世界を築き上げる私たちの貢献や奉仕をささげるための緊急の招きとして考え

ていませんでした。そして、あなた方、貧しいクララ会士たちは一層それにささげなければなりません。なぜなら、フランチェスコとキアラのメッセージは、ヨハネ・パウロ2世が1993年にアッシジで述べたように、「今日、福音の三つの言葉のうちに、すなわち、貧しさ、平和、そして祈り」のうちにまとめあげられたものだからです。教皇は続けて、「貧しさと平和はキリストのメッセージからの二つの必要条件であり、今まで以上に現代世界で有効です」。教皇は「福音的貧しさは平和の源です」と述べることで、結んでいます。

これは問題の複雑さを避けることでも、徹底した変化を避けることを示しているわけではありません。「愛の文明」は、もしそれが私たちの街の中心になれば、そして私たちが貧しさと自由であるために大胆さを持っていなければ、生じてこないということを単に示しているだけです。そして、新しいやり方で「物事の（なかにある）秘義」を、そして人間の困難な状況に喜びをもってこたえることを理解するために「貴女貧しさ」とともに「閉域」に入ることを示しているだけです。

結論

私たち、小さき兄弟とあなた方、貧しいクララ会士たちは、次の一つのことを決して忘れることができません。すなわち「一つの同じ精神が、小さき兄弟と貧しい小さな婦人たちをこの世から導き出しました」(2Cel 204)。私たちは、フランチェスコとキアラに私たちの主イエス・キリストの福音を生きるように靈感を注いだ同じ霊により生まれています。そうです、1982年のヨハネ・パウロ2世による喜ばしい表現によれば、「フランチェスコとキアラというこの二つの名前、フランチェスコとキアラというこの二つの現象、フランチェスコとキアラというこの二つの伝記、これらを区別することはできません」と教皇は述べています。この二つの表現、すなわち「フランチェスコとキアラ」は区別できないのです。実際、この二つの名前は元来のフランシスカンの理想を表現しており、フランチェスコと兄弟たちの歩みとキアラと姉妹たちの存在との間を補っています。

このことは自立と相互関係の両方を結びつけることで可能になるでしょう。このことは、私たちが2012年2月5日から12日まで開かれる聖クララ会連盟会長と補佐司祭の第一回国際会議で行おうとするものです。私は、兄弟たちのためにも、あなた方、貧しいクララたちに賢明な配慮と特別な関心を常に持っていたフランチェスコの関わり方を刷新してみたいのです (cf. RC 6,3-4)。

2011年4月16日の晩にさかのぼることから始めた2011年の聖キアラの祝日についてのこの短い手紙を締めくくりましょう。しかし、同じ望みを再び示します。その望みで、私はこの手紙を結びます。すなわち、聖キアラの奉献と貧しいクララ会の創立800年祭が、聖キアラの娘たちにとって恵みの時であり、あなた方が自分たちの召命をより良く知り、そしてより良く生き、また愛である神のこの世におけるしるしでありますように。また、小さき兄弟たちにとって、この800年祭が貧しい姉妹たちとの兄弟的な関係をいっそう強め、すべての人が私たちの唯一の主であり、救い主であるキリストに忠実であることの「鏡と模範」をキアラのうちに見ることができますように。

「主がいつもあなたとともにいらっしゃいますように、またあなた方がいつも主とともにおられますように」(BICI 16)。

ローマ、2011年7月15日

教会博士、聖ボナヴェントウラの祝日



兄弟ホセ・ロドリゲス・カルバリヨ、ofm
小さき兄弟会総長

Prot. 102129

Cover: painting with colored sand (OFM Curia, Rome)